

## 『御国残り御道具根帳』翻刻

山下 真由美

A reprinting of "An account book of official property in Tottori domain"

Mayumi YAMASHITA

## はじめに

鳥取県立博物館が所蔵する一万点を超える『鳥取藩政資料』の中に、『御国残り道具根帳』（資料番号六七六一、以後『根帳』）一冊が存在する。これは、幕末に鳥取藩によつて編纂され、当時国元（鳥取）にどのような調度類が保管されていたのかが記載された資料である。これまでに旧鳥取藩主の池田家所蔵品を知りうる資料として紹介されているものに、大正八年（一九一九）の『因州池田侯爵家御蔵品入札目録』（以後、『入札目録』）がある<sup>i</sup>が、この目録は廃藩後半世紀以上経つたものであり、売立という性格上、美術品や茶道具など数寄者らに需要のある品が選ばれている。一方、『根帳』は表道具、すなわち表向きに使用する道具を網羅した江戸時代の資料であり、『入札目録』には収められていないものも数多くある。また、当時は『根帳』以外に、江戸保管のものを記した別の道具帳<sup>ii</sup>や、後述するように『御数寄屋御道具根帳』や『御算用場根帳』などがあつたと考えられるが伝存しない。このように、『根帳』はその後の時代の趨勢の中で散逸した大名家所蔵品を知りうる同時代資料として貴重であるため、ここに翻刻をのせることとした。

このような江戸時代の大名所蔵の道具類については、たとえば岡山藩池田

家の旧蔵品については、明治時代にまとめられた『調度記』一〇三冊があり、その後大正時代から戦前まで調度方で使用していたとされる「諸什器取調帳」が近年翻刻されている<sup>iii</sup>。こうした資料と比較を行うことで、大名家所有の調度類の共通性や、鳥取藩ならではの特徴等、明らかとなることもあるであろうが、それは別の機会に譲ることとし、本稿では資料の概略を紹介したのち、鳥取藩の美術品（絵画）に注目し、鳥取藩に当時どのような絵画作品が保管されていたのかを整理し、その構成や特徴を把握することとする。このことで、一藩における表道具の具体的な様相が示されるだけでなく、当時の諸藩が所蔵する美術品の構成や必要とされた美術品についても示唆するところが大きいのではないかと考える。次いで、『入札目録』と比較することで、売立に出されたものと残されたものを明らかにし、未だまとまった論考のない廃藩後の鳥取藩池田家旧蔵品の動きについて、今後の研究の一助となることを期待する。最後に、『入札目録』に掲載された、現在メトロポリタン美術館が所蔵する尾形光琳筆「八橋図屏風」について、その来歴を整理しておくこととしたい。

<sup>i</sup> 鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取市東町 2-124

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

E-mail:yamashita-ma@pref.tottori.jp

[受領 Received 30 November 2014 / 受理 Accepted 27 January 2015]

一 『根帳』の概略

『根帳』は、縦三〇・三センチ、横二一・八センチ、全一一五丁（空白頁を含む）の縦帳一冊に、書跡や絵画、什器、武具や馬具、茶道具、楽器、刀剣、能道具など四〇八件が、一番から九番までにグループ分けして記載されている。各道具に移動があつた場合は、横に朱書き、あるいは付箋を貼つて、その年月日や移動先等が記される。各グループの末尾には空白頁が二〜五丁分取つてあり、追記していくことが想定されている<sup>iv</sup>。本文中に表れた年号は早いもので文化五年（一八〇八）、遅いものは慶応三年（一八六七）で、朱筆もしくは付箋による追記部分では万延元年（一八六〇）から明治四年（一八七二）までが確認できる。よつて『根帳』は、幕末に作成され明治四年頃まで活用されていたとみられる。この『根帳』が藩のどの組織で作成されたものかは不明であるが、元来、茶道具や絵画などの管理は御数寄屋御道具預が行つており、そこで作成された可能性が考えられる。ただし、『根帳』に絵画は多いものの茶道具が少なく、武具や馬具、楽器等も含まれている。また、御数寄屋御道具預は安政元年（一八五四）に廃止され、その後、特に重要な品のみ御茶道役が管理し『御数寄屋御道具根帳』に登録、その他は御勘定所管理の『御算用場根帳』に登録されることとなつており<sup>v</sup>、本根帳とこれらがどのように使い分けられていたかは不明である。

全体の構成は【表1】のようになっており、大まかな内容は以下のとおりである。

■「一番 御持出し」：茶道具（茶入・壺等）六件、絵画（後三年合戦絵巻・酒呑童子絵巻・東照宮真像等）五件、刀剣三件、書跡（東照宮書、徳川家光公書）二件、武具（類当・陣羽織）二件、什器（床机）一件、その他（系図・前髪）二件 計二十一件

「御持出し」、すなわち緊急の際は一番に避難させるべき道具類がまとめられたものである。「後三年合戦絵巻」（重要文化財・東京国立博物館蔵）や狩野元信筆「酒呑童子絵巻」（サントリー美術館蔵）、中興名物の瀬戸肩衝茶入「雪柳」（根津美術館蔵）など、当時から池田家所蔵として有名であった貴重な什物はすべて、ここに含まれている。そのほか、東照宮の書や真像、葵紋の入った陣羽織など、幕藩体制下の池田家にとって欠くべからざる品

(数字は点数)

グループ 内容	一番	二番	三番	四番	五番	六番	七番	八番	九番	計
書	2	6	25	97	23	18	1		1	175
画	5	4	6	12	48	20			14	109
什器	1	1					30		10	41
武具・馬具	2							34		36
茶道具	6	1	2				5		2	17
楽器			1				1		5	7
刀剣	3									3
能道具		2								2
その他	2	2	11	1		3			1	18
計	21	16	45	110	71	41	37	34	33	408

【表1】

がここに分類されている。

■「二番」：書跡（池田忠雄筆横物、古筆集手鑑、天海筆横物等）六件、絵画（楠公真影、典信筆三幅対等）四件、能道具（能面）二件、什器（鏡）一件、茶道具（香炉）一件、その他（国絵図、唐の頭）二件 計十六件

全グループ中もつとも少ない十六件が記載されている。内容は雑多で、狩野派の三幅対から、古筆集手鑑、能面、国絵図など幅広い。また、その他に分類した「唐の頭」は、通常ヤクなどの動物の毛を飾つた兜のことを指すが、ここでは「肉付唐之頭四切人」とあり、獣肉（剥製か）のようである。このほか、能面や国絵図なども他のグループには含まれていないため、二番には未分類のものや一時保管物の仮置きとして位置付けられている可能性がある。

■「三番」：書跡（徳川秀忠公書、弘法大師筆、池田利隆公筆、後水尾院宸筆等）二十五件、絵画（雪舟筆三幅対、牧谿筆三幅対等）六件、茶道具（茶碗・香合）二件、楽器（笛）一件、その他（牛黄、靈璧、龍角、金脳留等）十一件 計四十五件

後水尾天皇等の宸筆や、雪舟・牧谿など著名な画家による絵画が多い。ま

たこのグループには「その他」に分類されるものが十一件と最も多く、その内容は、「牛黄」は漢方薬、「靈璧」は珍しい岩石のことかと思われる。「龍角」や「金腦留」については具体的にどのようなものか寡聞にして知らないが、奇岩の類であるとすれば、雪舟や牧谿画とともに、接客の場の室礼に相応しい品であると言えよう。そのほか、川普請上納金の請取手形やその勘定帳など、なぜ道具根帳に分類されているのか明らかでないものがある。

■「四番 御筆類」…書跡（定家卿筆、遠州色紙、酒井雅楽頭筆、池田光仲公筆、桂香院様筆等）九十七件、絵画（溶姫君様画、秋田侍従義和様筆、池田綱清公筆等）十二件、その他（系図）一件 計一一〇件

「御筆類」とあるようにほとんどが書跡である。藤原定家や為家、小堀遠州などの著名書家だけでなく、酒井雅楽頭や紀州様（紀州徳川家）といった大名、鳥取藩歴代藩主の書などが多い。このうち二十件の鳥取藩主ならびにその夫人たちの書が、『鳥取藩政資料』の中に含まれることが確認でき、現存する。またこのグループには十二件の絵画が含まれるが、専門画家によるものではなく、藩主周辺や大名、親王等の手になるもので、余技の領域に含まれるものがほとんどである。秋田藩主・佐竹義敦（一七四八〜八五）は現在、画家・佐竹曙山として有名であるが、同じく四番に含まれており、当時の認識を知ることができる。そのほか注目されるのが「御系図 五箱」で、左の貼紙には「五箱之内／沓箱 御持出し沓番入／式箱 天球丸御蔵入／沓箱 御書類四番入／沓箱 当御側上り」と四番のグループ以外に分割して保管したことが記されている。「御持出し沓番」に入った一箱は、『根帳』一番の「御持出し」のグループ末尾にある貼紙「御系普 沓包」を指すのである。またこの貼紙から、『根帳』に記された道具以外に、「御側上り」、すなわち藩主のもとで保管されるものがあつたことがわかる<sup>vi</sup>。

■「五番」…絵画（雪舟筆豎物、探幽筆手鑑、一蝶筆豎物等）四十八件、書跡（二休筆、加藤千蔭筆、本阿弥光悦墨跡等）二十三件 計七十一件

『根帳』の分類中、絵画の数量が最も多く、画家の顔ぶれも多彩である。雪舟・狩野探幽など、ほかのグループでも見られる画家のほか、英一蝶・相阿弥・雪村・秋月等観らはここにのみ登場する。このほか、菱川師宣の「飴

売女図」、池大雅「墨画卷物」、谷文晁筆蜀山人賛の「狸図」なども見え、浮世絵や同時代の美術の動向を反映した作品も含まれている。本グループには毛益、李用雲、大鵬正鯤などの作品のほか、承応三年（一六五四）に長崎に渡来した雪機定然（「雪機正然」と記載）の「菊松柳図」、文晁の極をもつ葉緞紳の「墨梅図」等合わせて六件の中国画が記載されている。

■「六番」…絵画（探幽筆三幅対、土方稲嶺筆豎物、狩野探信筆豎物等）二十件、書跡（『毎月抄』、戲鴻堂法書折本等）十八件、その他（伊勢神殿図と御神木等）三件 計四十一件

本グループは五番と同様に、絵画と書が中心となっているが、より多種の絵画、書跡が含まれている。絵画では探幽や常信ら狩野家の名が見える一方、土佐光芳ほか土佐派と考えられるもの、鳥取藩絵師の作品、江戸中期の女流画家・木村玉英（生没年不詳）の作品も見える。また、正盛、立章など詳細不明な画家の名も目立つ。ほか、「魯西亜船人物図」「富士細見図」など、一般的な鑑賞絵画とは異なるものも含まれている。書跡十八件においても、『毎月抄』等の歌書類や卷子が多く、拓本も二件見られ、他グループにはない特徴をもっている。そのほか、伊勢神宮を描いた横物については、「御簾中様御側上り」と記載された貼紙があり、奥向きに移されたことがわかる。

■「七番」…什器（拝領の土器、盃等）三十件、茶道具（火入、茶碗等）五件、書跡（『長久手合戦記』）一件、楽器（笛）一件 計三十七件

本グループの大部分を占める土器や盃は、文化×天保年間（一八〇四〜四三）に元旦や将軍に子が誕生した祝いの節などに幕府より拝領したものである。茶道具は一番の項目にみられたような銘のある茶入などではなく、蒔絵の火入や銀製の釜、将軍家より頂戴した蓋付きの茶碗などで、実用品や拝領の品が多いようである。そのほか、藤四郎作の唐物・大茶入の左には朱書きで「元治元年子二月御茶屋江引渡し御数寄屋御根帳入二相成ル」と追記されていることから、本『根帳』は『御数寄屋御道具根帳』に記載された道具も含んだ総目録的な帳簿であつた可能性が考えられる。



■「八番 御馬具」…馬具（鐙・鞍・泥障等）三十四件

『根帳』中、最も統一されたグループで、鐙・鞍等の馬具のみが分類されている。

■「九番」…絵画（尚信筆屏風、探幽筆屏風、光琳筆屏風等）十四件、什器（料紙硯箱、刀掛、見台等）十件、楽器（鳳笙、琴、琵琶）五件、茶道具（壺、花生）二件、書跡（人皇正統録）一件、その他（虎の皮）一件 計三十三件

ここに収められている絵画はすべて屏風の形態をとり、琴や琵琶などが含まれることから、主に大型の道具類が集められているとみられる。探幽の屏風三件は英俊院、すなわち將軍徳川家齊の子で文化十四年（一八一七）に鳥取藩八代藩主池田斉稷の養子となった池田斉衆（一八一二～二六）が持ち込んだものであることが記され、將軍家から養子が迎えられた折に付随した道具の一例が知られる。英俊院はこのほかにも、初めて江戸城に登城した折に奥方より見台や花生を拝領しており、これらの品もまとめてこのグループに分類されている。

## 二 絵画資料の内訳

前章では『根帳』の番号ごとの内容と特徴を述べたが、ついで『根帳』記載の絵画一〇九件に注目してみたい。絵画作品と思われるものを抜き出し、リストにしたものが【表2】である。一〇九件の大まかな内訳は、日本の画家によると考えられるもの七十七件、中国の画家によると考えられるもの十一件、余技的絵画（藩主周辺や武士、親王等）九件、無銘の絵画及び真像十二件となっている。

もともと頻出する画家は、狩野探幽（一六〇二～七四）で十四件と突出しており、雪舟（一四二〇～一五〇六？）・英一蝶（一六五二～一七二四）各五件、久隅守景（生没年不詳）四件、狩野元信（一四七七？～一五五九）三件と続く。また狩野派の作品は、元信・尚信（一六〇七～五〇）ら近世初期から、典信（一七三〇～九〇）や高信（一七四〇～九〇）ら近世後期の画家まで合わせて三十一件あり、全体の約三割を占める。探幽作品の多さが一際目を引くが、探幽以後の鍛冶橋狩野家の当主たちの名は見えず、尚信より始

まる木挽町狩野家は、常信、古信、典信の名が見え、当時奥絵師四家の中で木挽町狩野家のもっとも力を持っていたことと連動している。雪舟に連なる画家として秋月等観が二件、雪村が一件ある。土佐派の作品は光芳一件、無銘一件のみと少ない。中国画は、牧谿、沈南蘋といった著名な画家だけでなく、王若水、葉縉紳など詳細は不明ながら中国人画家と考えられるもの、張路の模本も含めて十一件あり、全体の一割を占める。

ついで、活躍期が判明する日本の画家を時代別に分類すると、以下のようになる。

○室町時代以前—六名十四件（黙庵、巨勢惟久、雪舟、相阿弥、狩野元信、秋月等観）

○桃山時代—四名四件（雪村、狩野松栄、狩野玉染、小堀遠州）

○江戸時代前期—八名三十件（狩野探幽、狩野尚信、狩野安信、菱川師宣、久隅守景、狩野常信、英一蝶、尾形光琳）

○江戸時代中・後期—十三名十五件（狩野甫信、狩野古信、土佐光芳、池大雅、木村玉英、狩野典信、加藤千蔭、狩野高信、土方稲嶺、板谷広長、沖探容、谷文晁、佐竹曙山）

そのほか、第一章でみた『根帳』の分類の特徴を鑑みると、一番の「御持出し」は言うに及ばず、雪舟・牧谿など室町以前のオーソドックスな著名画家が並んだ三番に対し、五番ではより幅広く当世の画家も含まれていることから、因州池田家においてももっとも賞揚されブランド力の高い画家と認識されていたのは、『根帳』の一番および三番に登場する雪舟、秋月、狩野元信、そして牧谿、陳容ら中国画家の作品と考えられ、当時大名家で珍重されていた絵画の例を具体的に知ることができる。また、『根帳』に最も多く記載された探幽が一番と三番に収められていないことも意外な事実として注目される。そのほかの特徴として、英一蝶と久隅守景の所蔵数が多いことが挙げられる。雪舟らほどの権威付けは与えられていないにせよ、探幽や相阿弥らと同様に、池田家にとって欠くことのできない画家であったことをうかがわせる。

## 三 『入札目録』との比較

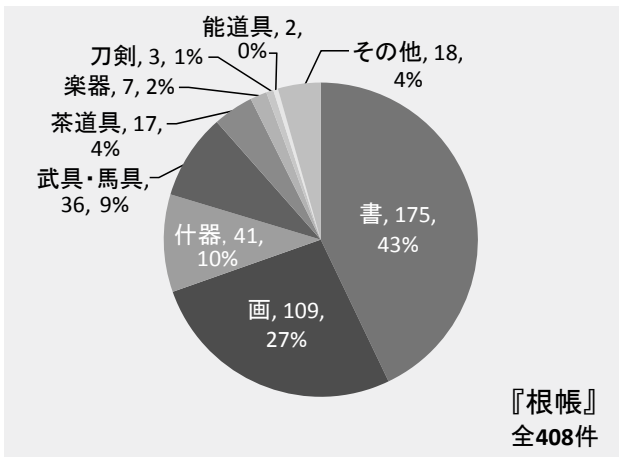
鳥取藩池田家の国元と江戸それぞれの部署で保管した道具類の全体像や、

【表2】

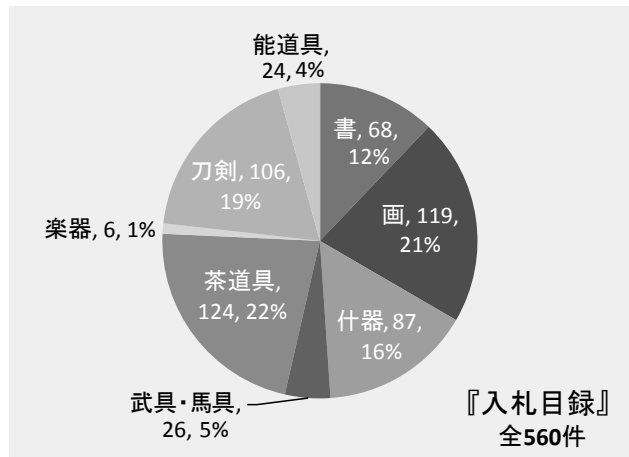
No.	「札目録」グループ	表記作者名	作者名	生没年	活躍時期	作品名	形式	員数
1	59 一番 1才	飛騨守惟久	巨勢 惟久	生没年不詳	南北朝	八幡太郎絵巻 (後三年合戦絵巻)	巻物	三軸
2	一番 2才	甫信	狩野 甫信	1695-1745	江戸中期	中摩利支天・左大黒 天・右弁才天図	竪物	三幅対
3	一番 3才	古法眼	狩野 元信	1477?-1559	室町	中瀧・左右鶴図	竪物	三幅対
4	60 一番 3才	狩野元信	狩野 元信	1477?-1559	室町	酒伝童子絵巻	巻物	三軸
5	一番 4才	—	—	—	—	東照宮真像	竪物	一幅
6	53 二番 6才	典信	狩野 典信	1730-1790	江戸中期	中黄安・左右群鶴図	竪物	三幅対
7	二番 6才	甫信	狩野 甫信	1695-1745	江戸中期	中摩利支天・左大黒 天・右弁才天図	竪物	三幅対
8	二番 8才	—	—	—	—	楠公真像	竪物	一幅
9	二番 8才	—	—	—	—	後醍醐天皇真影	横物	一幅
10	三番 9才	王若水	王淵	生没年不詳	元末	—	竪物	二幅対
11	三番 9才	雪舟	雪舟	1420-1506頃	室町	中釈迦・左牛・右鷹図	竪物	三幅対
12	5 三番 10才	雪舟	雪舟	1420-1506頃	室町	四皓図	竪物	三幅対
13	10 三番 11才	牧溪	牧谿	生没年不詳	宋末元初	中呂洞賓鍾離権・左寒 山・右拾得図	竪物	三幅対
14	三番 12才	雪舟	雪舟	1420-1506頃	室町	中布袋・左右鶴図	竪物	三幅対
15	三番 14才	陳所翁	陳容	生没年不詳	南宋末	—	竪物	一幅
16	四番 22才	溶姫	溶姫(池田慶栄 の母)	1813-1868	江戸時代後期	左松鶴・右梅鶴図	竪物	二幅対
17	四番 22才	溶姫	溶姫(池田慶栄 の母)	1813-1868	江戸時代後期	朝日に竹図	横物	一幅
18	36 四番 22才	小堀遠州政一	小堀 遠州	1579-1647	安土桃山~江戸前期	富士図自画賛	横物	三幅対
19	四番 23才	一心斎	戸田 一心斎	1810-1872	江戸時代後期	一匹馬図	竪物	一幅
20	四番 24才	秋田侍従義和	佐竹 義和	1775-1815	江戸時代後期	左旭松・右月竹図	竪物	二幅対
21	四番 25才	—	—	—	—	聖像	竪物	一幅
22	243 四番 25才	朽木大炊頭	朽木 綱貞	1713-1788	江戸時代中期	鴛鴦図	横物	一幅
23	四番 26才	綱清	池田 綱清	1648-1711	江戸時代前期	鷹図	竪物	一幅
24	四番 28才	仲澄	池田 仲澄	1650-1722	江戸時代前期	朝比奈図	横物	一幅
25	四番 31才	正国院	池田 慶行	1832-1848	江戸時代後期	村上彦四郎図	横物	一幅
26	227 四番 33才	伏見邦忠親王	伏見宮邦忠親王	1732-1759	江戸時代中期	黒松絵図	竪物	一幅
27	四番 35才	於儕	儕子(池田齊訓 の養女)	1816-1899	江戸時代後期~明治	月竹図	竪物	一幅
28	五番 39才	雪舟	雪舟	1420-1506頃	室町	達磨図自画賛	竪物	一幅
29	五番 40才	雪機正龍	[不明]	[不明]	[不明]	中菊・左松・右柳図画賛	竪物	三幅対
30	五番 40才	小田原玉栄	狩野 玉栄	生没年不詳	安土桃山	鶴鶴図	横物	一幅
31	73 五番 40才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	百体仏	手鑑	一箱
32	3 五番 41才	相阿弥	相阿弥	?-1525	室町	山水図(玉潤筆意)	横物	一幅
33	五番 41才	古法眼	狩野 元信	1477?-1559	室町	蘇東坡図	竪物	一幅
34	五番 41才	一蝶	英 一蝶	1652-1724	江戸前期	洗濯女図	竪物	一幅
35	五番 41才	無銘	—	—	—	草花蝶虫図	竪物	一幅
36	五番 41才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	天人図	横物	一幅
37	五番 41才	梁碁	[不明]	[不明]	[不明]	岩に竹図	横物	一幅
38	239 五番 42才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	唐子遊図	横物	一幅
39	五番 42才	守景	久隅 守景	生没年不詳	江戸前期	福祿寿図	竪物	一幅
40	五番 42才	守景	久隅 守景	生没年不詳	江戸前期	一盲導衆盲図	横物	一幅
41	五番 42才	沈土容	[不明]	[不明]	[不明]	花鳥図	巻物	一軸
42	五番 42才	一蝶	英 一蝶	1652-1724	江戸前期	躍図	横物	一幅
43	57 五番 42才	文晁	谷 文晁	1763-1841	江戸後期	狸図(蜀山人賛)	竪物	一幅
44	五番 43才	一蝶	英 一蝶	1652-1724	江戸前期	人麿真像	竪物	一幅
45	五番 43才	狩野安信	狩野 安信	1613-1685	江戸前期	—	巻物	一軸
46	五番 43才	雪村	雪村	1504-1589	室町~安土桃山	山水図	竪物	一幅
47	五番 43才	—	—	—	—	馬図	竪物	一幅
48	五番 43才	大鵬	大鵬 正鯤	1691-1774	清	竹図	竪物	一幅
49	五番 44才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	八景書画手鑑	一箱	
50	五番 44才	雪舟	雪舟	1420-1506頃	室町	山水図(一休賛)	竪物	一幅
51	五番 44才	頼庵	[不明]	[不明]	[不明]	魚図	竪物	一幅
52	230 五番 44才	毛益	毛益	生没年不詳	南宋	龍虎図	竪物	二幅対
53	五番 44才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	中維摩・左右獅子図	竪物	三幅対
54	五番 44才	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	中摩利支天・左大黒 天・右弁才天図	竪物	三幅対

No.	『入札目録』グループ	表記作者名	作者名	生没年	活躍時期	作品名	形式	員数
55	五番 45材	秋月	秋月等観	生没年不詳	室町	鍾馗図	竪物	一幅
56	五番 45材	松栄法眼	狩野 松栄	1519-1592	安土桃山	詩作図	竪物	一幅
57	五番 45材	秋月	秋月等観		室町	鍾馗図	竪物	一幅
58	五番 45材	守景	久隅 守景	生没年不詳	江戸前期	— (雪舟筆意)	竪物	二幅対
59	五番 45材	東坡	蘇軾	1036-1101	北宋	竹図 (王荊公讃)	竪物	一幅
60	五番 46材	英一蝶	英 一蝶	1652-1724	江戸前期	馬方之図	横物	一幅
61	五番 46材	無銘 (土岐)	— (土岐)	—	—	鷹図	竪物	一幅
62	五番 47材	菱川師宣	菱川 師宣	1618-1694	江戸前期	鈴売女図	横物	一幅
63	五番 47材	千蔭	加藤 千蔭	1735-1808	江戸中期～後期	高天原図	竪物	一幅
64	五番 47材	千蔭	加藤 千蔭	1735-1808	江戸中期～後期	寄月祝図	竪物	一幅
65	五番 47材	李用雲	李用雲	生没年不詳	清	竹図	横物	一幅
66	五番 47材	黙庵	黙庵	生没年不詳	鎌倉末～南北朝	梅竹図	竪物	一幅
67	270 五番 47材	大雅堂	池 大雅	1723-1776	江戸中期	書画	巻物	二軸
68	五番 48材	狩野家	— (狩野家)	—	—	四睡図	横物	一幅
69	8 五番 48材	相阿弥	相阿弥	?-1525	室町	山水図 (玉潤筆意)	横物	一幅
70	五番 49材	無銘	—	—	—	蓮に鷺図	横物小	一幅
71	五番 49材	張平山 (模本)	張路	生没年不詳	明	宋丞相趙朴祭天図 (模本)	竪物	一幅
72	16 五番 49材	葉緒紳	[不明]	[不明]	[不明]	墨梅図	竪物	一幅
73	五番 49材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	竹に雀図	竪物	一幅
74	五番 50材	常信	狩野 常信	1636-1713	江戸前期	—	小竪物	一幅
75	五番 50材	藤信香	英 一蝶	1652-1724	江戸前期	鹿嶋踊図	横物	一幅
76	46 六番 52材	探幽齋	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	中福祿寿・左大黒・右夷図	竪物	三幅対
77	六番 52材	稲嶺	土方 稲嶺	1741-1807	江戸中期～後期	蘭亭図	竪物	一幅
78	六番 52材	木村女玉	木村 玉英	生没年不詳	江戸後期	牡丹図	竪物	一幅
79	六番 53材	—	—	—	—	魯西亜船人物図	—	一箱
80	六番 53材	探信	狩野 探信守政 または探信守道	守政なら 1653-1718 守道なら 1785-1835	(守政) 江戸前期 (守道) 江戸後期	馬上仏道図	竪物	一幅
81	六番 53材	—	—	—	—	牡丹錦鶏鳥図	竪物	一幅
82	六番 53材	正盛	[不明]	[不明]	[不明]	四皓図	横物	一幅
83	六番 54材	子昂	[不明]	[不明]	[不明]	東坡像	横物	一幅
84	六番 54材	桂意	板谷 広長	1760-1814	江戸後期	樊噲図	竪物	一幅
85	六番 54材	探容	沖 探容	?-1839	江戸後期	牛若丸図	竪物	一幅
86	六番 54材	立章	[不明]	[不明]	[不明]	高砂図	横物	一幅
87	六番 54材	百川守之	[不明]	[不明]	[不明]	大黒図	横物	一幅
88	六番 54材	土佐	— (土佐)	—	—	宗祇像	竪物	一幅
89	六番 55材	狩野高信	狩野 高信	1740-1794	江戸中期	旭図	横物	一幅
90	六番 55材	—	—	—	—	富士細見図	横物	一幅
91	六番 55材	常時	長谷川 常時	?-1726	江戸前期	玉津嶋図	横物	一幅
92	六番 55材	光芳	土佐 光芳	1770-1772	江戸中期	栗鶉図	横物	一幅
93	六番 55材	古信	狩野 古信	1696-1731	江戸中期	橋蝠図	横物	一幅
94	六番 55材	狩野左近常信	狩野 常信	1636-1713	江戸前期	中張良・左風三郎・右雷神図	竪物	三幅対
95	六番 57材	以空大僧正	以空	1636-1719	江戸前期	黒絵鈴音 (自画賛)	—	一枚
96	九番 73材	尚信	狩野 尚信	1607-1650	江戸前期	山水図 (墨画)	屏風	六曲一双
97	80 九番 73材	守景	久隅 守景	生没年不詳	江戸前期	舞楽図 (着色)	屏風	六曲一双
98	九番 73材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	桐鳳凰図 (金地着色)	屏風	六曲一双
99	78 九番 73材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	[表] 唐土宮殿図 (着色) [裏] 四季花鳥図 (金地着色)	屏風	六曲一双
100	九番 73材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	唐土琴棋書画図 (着色)	屏風	六曲一双
101	77 九番 74材	光琳	尾形 光琳	1658-1716	江戸前期	太公望図 (金地着色)	屏風	二曲一隻
102	83 九番 74材	南蘋	沈 南蘋	1682-1761	清	四季山水花鳥図押絵貼	中屏風	六曲一双
103	九番 74材	—	—	—	—	鷹図 (着色)、 歌：近衛家	屏風	六曲一双
104	九番 74材	尚信	狩野 尚信	1607-1650	江戸前期	人物図 (墨画)	屏風	六曲一双
105	九番 75材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	山水図 (墨画)	屏風	六曲一双
106	九番 75材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	馬図 (墨画)	中屏風	六曲一双
107	九番 75材	探幽	狩野 探幽	1602-1674	江戸前期	山水図 (墨画)	屏風	二曲一双
108	九番 75材	—	—	—	—	一ノ谷合戦図 (着色)	屏風	六曲一双
109	九番 75材	—	—	—	—	鹿時鳥図 (墨画)	屏風	六曲一双





【グラフA】



【グラフB】

それらが明治に入りどのような移動したのか、その詳細は現在のところ不明である。しかし、大正八年（一九一九）六月二日に行われた池田家蔵品売立の世話人である高橋箒庵（一八六一～一九三七）は、事前に全七回にわたって旧鳥取藩主池田家の第十四代当主で侯爵の池田仲博（一八七七～一九四八）邸に赴き道具調べを行っており、その記録からは膨大な道具類を池田家が引き継ぎ管理していたことがうかがえる<sup>vi</sup>。『入札目録』に記載されている五六〇件は、この道具調べをもとに箒庵が選んだもので、国元で保管する表道具のみを記した『根帳』とは異なり、奥向きや江戸保管のものが含まれていると考えられる。『根帳』と『入札目録』記載の道具すべてを一点一点突き合わせることは不可能であるが、同一品と考えられるものや、明らかにどちらか一方にしかないものがある。そこで本章では『根帳』と『入札目録』に記載された道具の種別を比較することで、売立に出されたものと出されなかったものや、国元保管の表道具以外の道具類につ

いて検証してみることとする。

『根帳』と『入札目録』に記載された道具を種別で分けたものが【グラフA】と【グラフB】である。両者を比較すると、『根帳』では圧倒的に書が多いことがわかる。これは、『根帳』には池田家歴代の書や他藩の大名等、公的あるいは私的な交流の中で集まったものが多いことと関係していると考えられる。一方、『入札目録』所収の書はいわゆる古筆が多く、このことは、売立という性質上、世の数寄者たちが求めるものを選ばれていることを示している。また、売却する刀剣を選ぶ際に池田家の評議員である加藤正義が「格別當家に縁故なき者は之を賣却して然るべし」<sup>viii</sup>と述べているような判断基準が、他の道具にも同様に適用され、旧藩主の書など池田家と関係のあるものは売らずに保存する必要があると考えられたのであろう。なお、こうして池田家で引き続き保存されたものと売立に出されたもの以外の道具類は、箒庵によって「雑部」に分類され、大正八年三月四日と十三日の二回にわたって行われた内々の売立の中で売却された可能性が高い<sup>ix</sup>。

次に『根帳』において二番目に多いのは画で一〇九件（全体の二十七％）、『入札目録』では一一九件（全体の二十一％）である。画は『根帳』と『入札目録』において数量的にも割合的にもあまり差がないが、両者を照合すると同一作品と確認できるものは二十一点のみで、『入札目録』の絵画のうちの約十八％を占めるに過ぎない<sup>x</sup>。江戸では、幕臣や他の大名家等の出入が多く、必要とされる表道具も相当数あったとみられ、『入札目録』の絵画の残り八割は江戸保管の表道具が中心となつていて考えられる<sup>xi</sup>。『入札目録』における『根帳』以外の絵画から、現存しない「江戸御道具根帳」等に記された美術品の内容が推測されよう<sup>xii</sup>。

そのほかこのグラフにみる大きな違いに、茶道具と刀剣および能道具の割合がある。『根帳』における茶道具は十七件であるが、『入札目録』では一二四件もある。刀剣についても、『根帳』では三点しか掲載されていないのに対し、『入札目録』では一〇六件、同様に『入札目録』に二十四件ある能道具は『根帳』に能面二件しかのらず、装束類が全くない。このことは、国元に茶道具や刀剣、装束類がなかったと見るよりも、別の部署で管理していたと考えるのが妥当であろう<sup>xiii</sup>。

#### 四 尾形光琳筆「八橋図屏風」(メトロポリタン美術館蔵) について

鳥取藩池田家旧蔵として知られる尾形光琳の作品に、「太公望図屏風」(二曲一隻、京都国立博物館蔵)があり、「根帳」の九番に記載され、「入札目録」にも掲載されている。一方、「根帳」には記載されていないが、『入札目録』には光琳の「八橋図屏風」(「八ツ橋杜若六曲屏風」と記載、現在、米・メトロポリタン美術館蔵)も収載されている。この「八橋図屏風」は、国宝の「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)と同様に、『伊勢物語』に取材した光琳の六曲一双の屏風作品として広く知られ、大正八年の売立でも、出品中もつとも高額の八万二千円で落札されている(先の「太公望図屏風」は六万円)。このように、『入札目録』に「八橋図屏風」が掲載されていることから、しばしば池田家旧蔵品として紹介されている<sup>iv)</sup>。しかし、大正四年に刊行された『光琳画聖二百年忌記念 光琳図録』では本屏風が「松平齋光男所蔵」、すなわち旧津山藩松平家の当主・松平齋光(一八九七〜一九七九)の所蔵として図版掲載されており、先に見てきたように鳥取藩池田家の家宝ともいえる美術品が記載されている『根帳』に記載がないことから、江戸時代の間は池田家の所蔵ではないと考えられる。

それでは、大正四年以降、同八年六月二日の売立までのごく短い期間に旧津山藩松平家から池田家の所蔵になったのであろうか。本作の所蔵者について高橋箒庵の日記に重要な記述があるので、ここに掲出しておく(『万象録…高橋箒庵日記』巻七〈思文閣出版、平成三年〉より抜粋。傍線筆者)。

○大正八年五月二十九日「午後四時、兩國美術俱樂部に赴き池田侯爵家蔵器入札會飾附を檢分す。(中略)池田家の蔵品は二階大廣間に光琳菖蒲の屏風(松平齋光男所蔵)、守景舞樂図、探幽極彩色山水人物兩面六曲屏風、光琳太公望二枚折を陳列し、(中略)他の二階大廣間には飛彈守惟久の後三年役巻物、大江山の巻物各三卷共十分に披陳し、能裳束は紫縮緬幕内に面と共に陳列して、其中に入れば殆んど能裳束の隧道を行くが如く、備前池田家の入札の時よりも點數多くして一層壯觀を呈せり。(以下略)」

○大正八年六月二日「(前略)余は當日午後一時半より兩國美術俱樂部に開札の池田侯家蔵器入札會に出席せり。池田仲博侯夫婦、松平齋光男、同母堂、加藤正義、池田家職竹内武等出席、午後二時頃より續々開札せしが、松平

男出品光琳杜若屏風八萬貳千圓を筆頭として一萬圓以上の品目左の如し。(以下略)」

以上の記述は、光琳筆「八橋図屏風」が入札の時点でも松平家の所蔵であるものの、池田家蔵品として一緒に出品していることを示している。また、この屏風のみ松平家所蔵であることを明記していることから、本屏風以外はすべて池田家所蔵品であったとみてよいだろう。

このような他家の蔵品が混在する例として、同じく箒庵の差配で開かれた『松平男爵家御蔵品入札』(大正七年四月)がある。これは松平齋光を当主とする旧津山藩主・松平家の道具売立で、水戸徳川家の娘・直子(一九〇〇〜一九八九)との婚礼資金捻出のために開催されたものであるが、水戸徳川家の蔵品二〜三十点が追加補充されている。このように、婚姻関係にある家の所有する道具が一緒に並べられている事例があることから、『因州池田侯爵家御蔵品入札』に松平家所蔵の「八橋図屏風」が一緒に並べられた背景には、松平齋光の母・浪子(一八八〇〜一九五四)と池田家の当主・池田仲博が兄妹(父は徳川慶喜)であるという血縁が関係していると考えられる<sup>xv)</sup>。売立の済んだ大正八年七月に、箒庵が池田仲博夫妻と松平齋光の母(仲博の妹・浪子)および徳川閑順夫妻(妻は同じく仲博の妹・英子)を晚餐に招いていることも<sup>xvi)</sup>、親戚関係のつながりの深さを示しているだろう<sup>xvii)</sup>。

この入札会で、先述のように「八橋図屏風」は八万二千円の最高額を出して落札された。『因州池田侯爵家御蔵品入札高値表』や高橋義雄(箒庵)の『近世道具移動史』(慶文堂書展、一九二九年)には平山堂が落札したことが記されている。よって、池田家の所蔵であった時期はなく、松平家から平山堂の所有となり、以後転々としてアメリカに渡つたとみられる<sup>xviii)</sup>。

#### 五 おわりに

以上、「根帳」の概略ならびに絵画作品を中心とした鳥取藩における表道具の具体的な様相を見てきた。次いで、『入札目録』と比較することで、売立に出されたものと残されたもの、また『根帳』に記載された国元保管の表道具以外の存在が示された。そして、尾形光琳筆「八橋図屏風」についても、未だ不明な点もあるとはいえ、鳥取藩池田家の所蔵であった時期はなかった



と考えられた。

鳥取藩の各部署で管理した道具類や文書の全体像や、廃藩後のそれらの流れについては、未だ把握できていない部分も多く、さらなる整理が今後の課題となる。《鳥取藩政資料》の中には、前述のとおり『根帳』に記された藩主周辺の書画がいくつか含まれていることが確認できるほか、膨大な資料の中には『根帳』に記された美術品に関する記事も散見され、たとえば『御用入日記』の延宝八年（一六八〇）二月十一日の条には狩野元信筆「酒呑童子絵巻」を、幕府御用の屏風作成の参考とするため狩野養朴に貸し出している記事や、『御用入日記』寛文十一年（一六七二）九月二十六日の条には狩野探幽が幕命により「酒呑童子絵巻」の写本を作成するため模写の許可をとっている記事があることなどが指摘されている<sup>xv</sup>。このように《鳥取藩政資料》の中には各作品研究や画家研究の上で重要な情報も含まれているため、今後注視していくこととしたい。

i 『特別展 鳥取藩32万石』図録（鳥取県立博物館、二〇〇四年）に翻刻が掲載されている。

ii 文久三年（一八六三）に参勤交代が廃止されるに及び、「是迄当表江有之候御道具類も全く御必要之分迄、御差置、其餘之御品は追々御国表へ可被成御廻二付、取調可申達事」（《鳥取藩政資料》資料番号六九〇七『御近習医師・御部屋付医師・御茶道他』中、〈御茶道〉文久三年三月四日）という記事により、江戸で使用・保管した道具類があつたことがわかり、それらを管理する帳簿もあつたであろうことが推察される。

iii 浅利尚民「資料紹介」「諸什器取調表」旧岡山藩関係資料・調度品の近代における変遷とその復元―「諸什器取調表」を手がかりとして―（『林原美術館紀要・年報』第二号、二〇〇七年）、浅利尚民「旧岡山藩主池田家の近代における文化財管理の実態について」（『林原美術館紀要・年報』第三号、二〇〇八年）

iv 各グループの末尾数行は、それまでと筆跡が異なることから、追記されていることがうかがえる。

v 「格別之御品柄は此以後御数寄屋御道具根帳付にして御用人印形致し置、御茶道之負二被仰付。但シ右根帳付之分は御算用場根帳抜二相成候事」（《鳥取藩政資料》資料番号六九〇七『御近習医師・御部屋付医師・御茶道他』中、〈御茶道〉安政元年七月二十七日の記事より）

vi そのほか、二箱を収めた「天球丸御蔵」は、元来武器庫であり、大切なものをしまふことにはないはずである。したがってこの貼紙は、文久三年の参勤交代廃止に伴い、城内にあつた「御宝蔵」を取り壊し、天球丸を蔵代わりに使用したごく限られた時期のものと考えられる。

vii 『万象録・高橋箒庵日記』巻六・七（思文閣出版、平成元・三年）より。ここに記載された、箒庵による全七回の池田家蔵品調査の内容は、以下のとおり。（第一回）大正七年十二月十八日：茶入・茶碗・香合・茶杓（第二回）同年十二月二十一日：掛物・花生・釜・香炉・水指等（第三回）大正八年一月二十九日：屏風・古筆掛物・巻物帖類・釜其他茶器の残品等（第四回）同年三月一日：皿鉢・楽器・蒔絵物・火鉢・煙草盆・其他の雑記（第五回）同年三月八日：蒔絵物（棚類・貝桶・琴・重箱類）・銀器・巻物・帖類（第六回）同年三月十日：掛物類・馬具・甲冑等（第七回）同年三月十七日：刀剣。そのほか、大正八年一月二十九日の蔵品調査の記録の末尾に「此外時繪、能装束等は同家向島の舊宅倉庫に残留する由にて、他日之を調査する事と為し（以下略）」とあることから、上記七回以外にもこれらを調査したと考えられる。また、現在当館が所蔵する《鳥取藩政資料》についても、廃藩置県後、どのように保管されていたかは明らかでないが、池田家に一括して移されたと考えられる。（参考：『鳥取藩政資料の由来と特色』《鳥取藩政資料目録》鳥取県立博物館、一九九七年）

viii 『万象録・高橋箒庵日記』巻七中、大正八年三月十七日の記述より。

ix 『万象録・高橋箒庵日記』巻七中、大正八年三月三日および十日の記述より。

x ただし、たとえば【表2】No.62の菱川師宣「飴売女図」と、『入札目録』No.247の菱川師宣「美人」など、同一であるかもしれないが現時点では確定できない作品はカウントしていない。

xi 前掲註ii参照。また、『根帳』八番の馬具の項にも「萬延元年申閏三月江戸根之内相廻候」とある。

xii 廃藩後あらたに池田家の所蔵となったものもあるかもしれないが、数量的には少ないと考えられる。

xiii 前掲註iiiによると、岡山藩では、御廟宝庫、御数寄方、大納戸、御小納戸、御武具方、御腰物方等管轄が多岐にわたっており、かなり細分化されていたことがわかる。

xiv 山根有三「八ッ橋図」解説（『在外秘宝 欧米収蔵日本絵画集成―障屏画 琳派文人画』、学習研究社、一九六九年）、河野元昭「八ッ橋図屏風」解説（『日本美術絵画全集 第17巻 尾形光琳』、集英社、一九八二年）等。

xv 箒庵の日記には、松平家の道具売立に際し、二十二歳の青年・齊光ではなく、その

母である浪子が最も発言力を有していたことも詳細に記されている。

<sup>xvi</sup> 大正八年七月十七日「午後五時、妻と共に濱町常磐屋に赴き池田、徳川兩侯家族の來會を待ち受く。五時半徳川圀順侯夫婦、後室、家扶福原修、池田仲博侯夫婦、家職竹内武、松平齊光男母堂、加藤正義參會。(中略)徳川、池田、松平三家共に昨年來余の宰領にて藏器入札會を催し、夫れ、謝禮として茶器を寄贈せられたるに依り、今日は右三家を招きて其挨拶に代へたるなり。」(『万象録・高橋箒庵日記』巻七)

<sup>xvii</sup> 仲博は、水戸徳川家との縁故により、箒庵に池田家の道具鑑別を依頼している(『万象録・高橋箒庵日記』巻六中、大正七年十月二十五日の記述より)。

<sup>xviii</sup> メトロポリタン美術館が管理する来歴データでも大正八年の売立後の所蔵は平山堂であることを確認している。しかし、大正十年十月の『國華』第三十二号に掲出された「八橋図屏風」の所蔵は「池田仲博君」となっており、その事情は不明である。

<sup>xix</sup> 大嶋陽一、研究会発表「近世中期の鳥取藩と奥絵師狩野家」(鳥取地域史研究会、二〇一四年)

## 謝辞

『根帳』の解説にあたりましては、浜橋明代氏の多大なる御協力を賜りました。また、査読者の方々には、鳥取藩の道具預り等について、大変貴重な御指摘や御助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

## 翻刻凡例

- ・史料の解読は、鳥取県立博物館所蔵『御国残り道具根帳』（資料番号六七六一）をもとにおこなった。
- ・史料の解読にあたっては次の要領でおこなった。
  - ①もともと用いられていた表記も重要な情報であるため、基本的に異体字もそのまま活字化した。ただし、変体仮名は基本的に平仮名に直した。
  - ②「より」など合字は一字ずつに直した。また、助詞として用いられている限り、「江」「而」「之」は漢字をそのまま用いた。
  - ③用字上の誤記はそのまま記し、右側に（ ）をもって正字を記し、正字が推測の域を出ない場合は（ゝカ）と右側に記した。
  - ④朱書、貼紙は下記の通りとした。
    - 〈朱書〉朱書き部分は（朱書）「〜」のように明記した。
    - 〈貼紙〉貼紙に書かれた文字は【 】の中に記した。
  - ⑤判読困難で字数が不明な場合は「 」とし、右側にその理由を記した。
  - ⑥史料の改行は基本的に原文と一致するが、複数行を一行に記す場合、／を入れ、改行箇所がわかるようにした。



御国残り御道具根帳

〔表紙題箋〕

御国残り御道具根帳

(1丁 空白)

1才

御持出し

壹番

一 御巻物 八幡太郎／絵詞

一 画工飛騨守惟久

一 中詞書左少将保脩

一 下巻惣奥書持明院／基時卿

箱入 三軸

一 上詞書仲直朝臣

一 下詞書從三位行忠

一 箱上書持明院／基時卿

1ウ

一 御茶入 雪柳

壹箱

一 右御袋

一 御伽羅壺式ツ

壹箱

2才

甫信筆

左大黒天

一 御豎物三幅對 中摩利支天

壹箱

右弁才天

一 御茶入 竜田

壹箱

一 右御袋

壹箱

2ウ

一 御刀一腰 象眼銘／京来太郎

御鍬式重上金無垢

式尺三寸七步

下銀臺金着

一 御刀一腰 山州来国光

御柄鮫白

式尺三寸八步

御目貫赤銅夕顔

御縁赤銅料子彩蝶

御鍔鉄透し

御切羽金

御鍬式重金無垢

上鍬葵御紋透し

3才

一 御頬當

壹箱

一 御床几

壹脚

古法眼筆添状有

一 御豎物三幅對

壹箱

左 右 中 右 鶴 瀧 鶴

3ウ

一 金御茶鍋 壺

壹箱

同御茶碗 壺

入







	牧溪筆 一 御豎物三幅對 右十得	左寒山 中呂洞賓鍾離權	壹箱		一 飛鳥井様より御免状七箱	壹包
12才	雪舟筆 一 御豎物三幅對 右 鶴	左 鶴 中布袋	壹箱		一 忠之御一字 三郎五郎様／新次郎様御称号 尾張大納言様御書	壹箱
	一 川々御普請御上納金請取手形		壹箱		一 利隆公御筆	壹箱
	一 同御入用出金御勘定仕上帳		壹箱		14才 東照宮御筆入 一 御書類数々入	壹箱
12ウ	公方様より御頂戴 一 御熨斗入		貳箱		池田式部より献上 一 御香合 天盃／添手紙有	壹箱
	一 御納金請取手形入		壹箱		一 正國院様御遺稿	壹箱
	一 道春書翰		壹箱		禁裏御用之品之由二而龍峯寺より献上 一 御茶碗 壹 染付焼／同御臺 壹	壹箱
13才	一 東照宮御直判御書		壹箱		14ウ 芝山持豊卿御筆 一 御横物	箱入 壹幅
	一 御笛		壹箱		添書後水尾院震筆 小歌近衛関白信尹卿正筆	
	一 弘法大師筆		壹箱		一 御横物 中にめしたる／鹿の子の小袖	同 壹幅
	一 新太郎様御筆		壹箱		陳所翁筆 一 御豎物	同 壹幅
13ウ						

15才	後水尾院御震筆 <sup>(皇)</sup>			後伏見院様御震筆 <sup>(皇)</sup>		
一	御横物 秋ふかき	同	壹幅	一	御横物 小色帟／いとくゝや	箱入 壹幅
	御光明院御震筆極札有			後水尾院御震筆 <sup>(皇)</sup>		
一	御豎物 旅懐	同	壹幅	一	御豎物 小色紙	同 壹幅
	後陽成院御震筆 <sup>(皇)</sup>			慶應三年卯四月竜峯寺より差上ル 忠雄公御筆御箱書御書		
一	御豎物 思無頼	同	壹幅	一	御横物 和歌	同 壹幅
15ウ	後圓融院御震筆極札有			18才	有栖川様御筆	
一	御豎物 色紙／玉鉾乃	箱入	壹幅	一	御横物 香に匂ふ	壹幅
	宰相様御筆			(18ウ 空白)		
一	御横物 あまりに	同	壹幅	(4丁 空白)		
	後水尾院御震筆 <sup>(皇)</sup>			19才	御筆類	
一	御豎物 色紙／和歌	同	壹幅	四番		
16才	後水尾院御震筆 <sup>(皇)</sup>			為家卿御筆極有		
一	御豎物 余寒氷	同	壹幅	一	御豎物 をちかへり	箱入 壹幅
	後陽成院御震筆 <sup>(皇)</sup>			為相卿御筆		
一	御豎物 色紙	同	壹幅	一	御豎物 おく山の	同 壹幅
	真鏡院様御遺物			19ウ	藤原光廣卿御筆極札有	
一	御色紙 卿家衆／歌仙六枚		壹箱	一	御横物 懐紙橘の	箱入 壹幅
17ウ				定家卿御筆極札添手紙有		

一 御豎物	色紙／かくハあらて	同	壹幅
了意極			
一 御豎物	三賢	同	壹幅
	小野左頭道風／世尊寺行成／参議佐理卿		
20才			
遠州小色紙			
一 御豎物	千はやふる	同	壹幅
小遠色紙			
一 御豎物	津の国の	同	壹幅
二條家前大納言為氏卿御筆極札二枚有			
一 御豎物	ことしより	同	壹幅
20ウ			
若狭少将長嘯子歌入文極札有			
一 御小豎物	山風に	箱入	壹幅
俊成卿御筆添手紙有			
一 御豎物	花さかぬ	同	壹幅
従二位家隆卿御筆極札有			
一 御豎物		同	壹幅
21才			
仁和寺宮道永法親王御筆			
一 御巻物		同	壹軸
中務卿邦永親王			
一 御横物	梅も咲	同	壹幅
小堀遠江守文極札有			
一 御横物	寶嶽	同	壹幅
21ウ			
新古今和歌集妙法院堯然親王御筆極札有			
一 御巻物		箱入	壹軸
定家卿御筆里村玄陳極札有外二題小堀政一添状			
一 御豎物	色紙／すめる池の	同	壹幅
近衛龍山公御筆極札有			
一 御横物		同	壹幅
22才			
一心齊様御筆			
一 御豎物		同	壹幅
溶姫君様御画			
一 御豎物	式對 左松鶴／右梅鶴	壹箱	
溶姫君様御画			
一 御横物	朝日二竹	箱入	壹幅
22ウ			
水戸前中納言様御筆			
一 御豎物		箱入	壹幅
加賀宰相様御筆			
一 御豎物		同	壹幅



小堀遠州政一筆極札有  
一 御横物三幅對 富士之圖／自画讃

壹箱

23才

太玄齋筆

一 御豎物 雲以常懸

箱入 壹幅

台徳院様御筆

一 御豎物

同 壹幅

一心齋様御筆

一 御豎物 一疋馬之圖

同 壹幅

23ウ

細川尊茲（尊也）侯御筆

一 御豎物 花鳥

箱入 壹幅

酒井雅楽頭様御筆

一 御横物

同 壹幅

酒井忠以超宗院御筆

一 御横物

同 壹幅

24才

正親町前大納言殿御筆

一 御豎物

同 壹幅

秋田侍從義和様御筆

一 御豎物式幅對 左旭松／右月竹

壹箱

忠宗君御筆

一 御横物 飾書

箱入 壹幅

24ウ

通躬卿筆

一 御横物 散し書

箱入 壹幅

紀州様御筆

一 御豎物 雲龍

同 壹幅

楠河内入道筆

一 御豎物

同 壹幅

25才

一心齊様御筆

一 御横物 杜若

同 壹幅

勸修寺中納言殿筆

一 御横物

同 壹幅

一 御豎物 聖像

同 壹幅

25ウ

朽木大炊頭様御筆

一 御横物 鴛鴦之画

箱入 壹幅

栄岳院様御筆

一 御豎物

同 壹幅

水戸前中納言様御筆

一 御豎物 鷹

同 壹幅







一 御書類数々入	壹箱	御方々様御色紙	壹箱
大機院様		一 御手鑑	
一 御發句入	壹箱	水戸前中納言様御筆	箱入 壹幅
36ウ		一 御横物 整武	
雄五郎様御筆			
一 御短冊三拾壹枚／鎌信公書写	壹箱	38才	
【朱書】「謙信公書写し／明治四年未六月御調之節不引合 此分御判木御出来之節差出候ともか」		水戸前中納言様同御簾中様御両筆	同 壹幅
一 御短冊三拾壹枚／謙信公書写	壹箱	一 御豎物 短冊	同 壹幅
安政六年未八月氣多郡願正寺より献上		水戸前納言様御筆	同 壹幅
龜井武蔵守様御書		一 御豎物 照月に	
一 御巻物	箱入 壹軸	賢良院様御筆	式枚入 壹箱
一 橋刑部卿様御筆		一 大文字御書	
一 御豎物	同 壹幅	(38ウ 空白)	
37才		(5丁 空白)	
輪光院様御筆		39才	
一 御豎物 御短冊	同 壹幅	五番	
輪光院様御筆		一 休筆	
一 御横物	同 壹幅	一 御豎物 色八なを	箱入 壹幅
耀國院様		一 休和尚三首和歌	
一 御書	同 三枚	一 御大横物 月に村雲	同 壹幅
37ウ		39ウ	
天祥院様御筆		里村昌琢正筆	箱入 壹軸
一 御横物 扇面／呉竹	箱入 壹幅	一 御小巻物	



雲魁道人真蹟	一 御横物 市隱	同 壹幅	一 御豎物 蘇東破之圖 <sup>(度)</sup>	同 壹幅
雪舟画讚	一 御豎物 達摩之圖	同 壹幅	一 蝶筆	
40才			一 御豎物 洗濯女之圖	同 壹幅
大明黄檗山僧雪機 <sup>(定方)</sup> 正然画讚			無銘	41ウ
一 御豎物三幅對 左松／中菊／右柳	壹箱		一 御豎物 草花蝶虫之圖	箱入 壹幅
加茂真洌自詠			(朱書) 此草花蝶虫ノ圖 御豎物 慶應三年卯十一月西尾柳平江被遣二相成ル	
一 御横物 賀七拾齡詠	箱入 壹幅		探幽筆	
小田原玉染添状有			一 御横物 天人之圖	同 壹幅
一 御横物 鶴鴿	同 壹幅		梁碁筆	
40ウ			一 御豎物 岩二竹之圖	同 壹幅
季思筆			探幽筆	42才
一 御豎物 曇摩	箱入 壹幅		一 御横物 唐子遊之圖	同 壹幅
千蔭筆			守景筆極札有	
一 御横物 詠桜長歌	同 壹幅		一 御豎物 福祿壽	同 壹幅
探幽筆探信鑑定書有之			守景筆	
一 御手鑑 百躰佛	壹箱		一 御横物 一盲導衆盲之圖	同 壹幅
41才				
玉潤筆意相阿弥筆印斗				
一 御横物 山水之圖	箱入 壹幅		42ウ	
古法眼筆添状有			沈士容筆極札有	
			一 御卷物 花鳥	箱入 壹軸

一 蝶筆  
一 御横物 躍之圖

同 壹幅

一 頼庵筆外題有  
一 御豎物 魚之圖

同 壹幅

文晁画蜀山人讚

一 御小豎物 狸

同 壹幅

44寸  
毛益筆  
一 御豎物式幅對 龍虎之圖

壹箱

43寸

一 蝶筆

一 御豎物 人磨真像

同 壹幅

探幽筆  
一 御豎物三幅對 左獅子／中維摩／右獅子

壹箱

狩野安信筆

一 御卷物

同 壹軸

探幽筆  
一 御豎物三幅對 左大黒天  
中摩利支天  
右弁財天

壹箱

雪村筆

一 御豎物 山水

同 壹幅

45寸  
安政五年午十二月町人石井昌平献上  
林羅山先生真蹟極札有

箱入 壹幅

43寸

一 御豎物 馬之圖

箱入 壹幅

一 御豎物 道統傳説

箱入 壹幅

華僧大鵬筆

一 御豎物 竹之絵

同 壹幅

秋月筆外題有  
一 御豎物 鍾馗

同 壹幅

一 御横物 百敷や

同 壹幅

松栄法眼筆  
一 御豎物 詩作之圖

同 壹幅

44寸

探幽筆

一 御手鑑 八景之書画

壹箱

45寸  
秋月筆外題有  
一 御豎物 鍾馗

箱入 壹幅

画雪舟讚一休極札有

一 御豎物 山水

箱入 壹幅

雪舟之筆意守景正筆笹山伊成添手紙有

壹箱

一 御豎物式幅對

壹箱

東坡画王荊公讚	千蔭筆		
一 御豎物 竹之絵	一 御豎物 寄月祝圖	箱入 壹幅	同 壹幅
小卷物休叟記添			
46才	47ウ		
微明筆	季用雲竹画		
一 御豎物 書	一 御横物	箱入 壹幅	同 壹幅
英一蝶筆	默庵筆極札有		
一 御横物 馬方之圖	一 御豎物 梅竹	同 壹幅	同 壹幅
無銘土岐筆極有之	大雅堂畫書		
一 御豎物 鷹之圖	一 御卷物	同 壹幅	同 貳軸
46ウ	48才		
趙輝謙之書	狩野家之筆		
一 御横物 國子助翁	一 御横物 四睡之圖	箱入 壹幅	同 壹幅
隱元和尚十弟墨跡	玉潤筆意相阿弥筆		
一 御卷物	一 御横物 山水之圖	同 壹軸	同 壹幅
其角短冊了意下に札有	千蔭筆		
一 御豎物 敷入や	一 御卷物 和歌	同 壹軸	同 壹軸
47才	48ウ		
菱川師宣筆	千蔭筆		
一 御横物 飴賣女之圖	一 御卷物 詩歌	同 壹箱	壹箱
大縁寶尽し	三岳筆		
千蔭筆	一 御豎物 問人遠山田	箱入 壹幅	壹幅
一 御豎物 高天原之圖	克明筆	同 壹幅	

一 御豎物 三幅對 福祿寿	壹箱	堂上方	同 壹軸
49才		一 御卷物 玉章	
無銘黙庵極有		常信筆	
一 御小横物 蓮二鷺之圖	箱入 壹幅	一 御小豎物	箱入 壹幅
張平山筆模本文晷極有		50ウ	
一 御豎物 宋丞相趙朴祭天之圖	同 壹幅	藤信香筆	
本阿弥光悦墨跡		一 御横物 鹿嶋踊之圖	同 壹幅
一 御卷物	同 壹軸	江月	
49ウ		一 御豎物 時々	同 壹幅
葉檜 <sup>(箱方)</sup> 紳筆文晷極		(3丁 空白)	
一 御豎物 墨梅之圖	箱入 壹幅	51才	
萩先生書		六番	
一 御卷物	同 壹軸	一 御豎物 石摺 <sup>(箱)</sup> 勸音	箱入 壹幅
探幽筆		一 御横物 伊勢神殿之圖／外二御神木添	同 壹幅
一 御豎物 竹二雀之圖	同 壹幅	【辛未六月／御神木不引合取調事／御簾中様御側上り】	
(朱書) 此竹二雀之圖 御豎物 萬延元年申十二月		51ウ	
思召二而 村上晚節江被遣二相成ル		平野仲庵筆	
50才		一 御卷物	箱入 三軸
古溪叟筆折紙有		極札有	
一 御横物 当不属	同 壹幅	一 每月抄	壹箱
加茂李鷹筆		伊吹左仲筆	
一 御豎物 桜之詞	同 壹幅	一 日本武尊老杖／稻垣若狭守様焼画老杖	

52才	一 三冊物	もゝしき	壹箱	一 御豎物	牡丹錦鶏之圖	同	壹幅						
探幽齋 <sup>⑧</sup>	一 御豎物三幅對	左大黒／中福祿寿／右夷	壹箱	正盛筆	一 御橫物	四皓之繪	同	壹幅					
極添手紙有	一 御橫物	印月江	箱入	壹幅	54才	子昂筆	一 御橫物	東破 <sup>⑨</sup> 之像	同	壹幅			
52ウ	稻嶺筆	一 御豎物	蘭亭画	箱入	壹幅	桂意筆	一 御豎物	樊噲	同	壹幅			
木村女玉	一 御豎物	牡丹之圖	同	壹幅	探容筆	一 御豎物	牛若之圖	同	壹幅				
赤佐是閑百老歲筆	一 御橫物	同	壹幅	54ウ	立章筆	一 御橫物	高砂之圖	箱入	壹幅				
53才	福山即非筆	一 御豎物	春夏秋冬	同	壹幅	百川守之	一 御橫物	大黒	同	壹幅			
探信筆	一 魯西亜船人物之圖	壹箱	色紙坊城大納言筆	宗祇之像土佐筆	一 御豎物	同	壹幅	55才	狩野高信	一 御橫物	旭之圖	同	壹幅
一 御豎物	馬上佛道	箱入	壹幅	一 御橫物	富士細見之圖	同	壹幅						
53ウ	一 御卷物	御文之写	箱入	壹軸	一 御橫物	同	壹幅						



常時筆			
一 御横物 玉津しま	同	壹幅	
55ウ			
光芳筆			
一 御横物 粟鶉	箱入	壹幅	
古信筆			
一 御横物 橋かうもり	同	壹幅	
狩野右近常信筆			
一 御豎物三幅對	同	壹箱	
			左風三郎 中ちようりよう 右雷神
56才			
近衛極家公			
一 自讚歌 御折本	箱入	壹冊	
細川兵部太輔			
一 歌書	同	壹冊	
一 子安寶珠神縁記 <sup>(註)</sup>	同	壹軸	
56ウ			
光嚴院極札有			
一 朗詠	箱入	壹軸	
一 朗詠	同	壹軸	
為家卿筆			
一 歌合 折本	式重箱入	壹冊	
57才			
黄檗開山普照國師真筆	箱入	壹幅	
一 御豎物			
治部齋			
一 詩歌	同	壹軸	
以空大僧正自画自讚極札有			
一 黒絵勸音 <sup>(註)</sup>	同	壹枚	
57ウ			
了音極有			
一 御卷物 源氏八景	式重箱入	壹軸	
萬延貳年酉二月八橋郡佐橋仁右衛門献上			
戲鴻堂法書			
一 御折本	式箱二入	拾六冊	
内式帖目老冊箱外二相成箱之上二添			
一 宋蔡襄萬安橋之碑		壹箱	
58才			
(3丁 空白)			
七番			
從/家康公御拝領			
一 御土器		壹箱	
元日御拝領			
一 御盃三ツ		壹箱	

- 58ウ  
文化十四年十一月六日  
若君様御七夜為御祝儀御登城於桜之間／御拝領  
一 御盃式ツ 壹箱
- 文化十五寅年正月元日御頂戴  
一 御盃 壹箱
- 文化十年酉十一月十八日  
竹千代様御誕生御祝儀御触之節從  
公方様大納言様嶋臺二而御頂戴  
一 御盃式ツ 壹箱
- 59才  
文化十三年子四月十一日  
公方様御転任  
右大將様御兼任御能之節御料理御頂戴二而  
一 御盃式ツ 壹箱
- 一 御扇團 葵御紋付 壹箱
- 59ウ  
一 御額 一以貫之 一面
- 一 御筆 壹箱
- 一 勝入公長久手合戦記 壹冊
- 60才  
一 御笛 小獅子 壹箱
- 一 御刀懸 金屏 壹箱
- 文化五年同七年同九年同十一年元日御頂戴  
一 御盃四ツ 壹箱
- 60ウ  
文化十四年丑十一月三日  
乙五郎様御智養子被仰出御禮被仰上候節／御頂戴  
一 御盃 壹箱
- 文化十二年丑<sup>(多力)</sup>九月十八日  
大納言様御宮詣翌十九日御登城之節／於西ノ丸御頂戴  
一 御盃 壹箱
- 61才  
天保弍年卯十一月十一日御元服之節於／御本丸御頂戴  
一 御盃 壹箱
- 天保弍年卯十二月三日御縁組之御禮被  
仰上候節於御本丸御頂戴  
一 御盃 壹箱
- 61ウ  
一 御火入灰吹 黒塗若松蒔絵 壹箱
- 一 御小手洗 黒塗 壹箱
- 一 御提重 黒塗／御紋付 壹組
- 62才  
一 御重箱 朱塗 壹組

(朱書)「此朱塗御重箱壹組慶應三年卯七月角輪御印付二而御中奥御用二出ル」

文化十三年子正月元日御拝領

一 御土器

壹箱

天保七年申四月廿五日日光御宮江

御社参之節御神酒御頂戴

一 御土器

壹箱

62ウ

一 御文臺 桐白木／松二月模様

壹箱

紀州様より御出来

一 御刀懸 紫檀／鷹之羽蒔絵

壹箱

【当時御祝御用二而御奥上り(朱書)「と有之調事」】

荒尾小八郎献上

一 御硯塀 青磁

壹箱

一 御硯 見るかひ

壹箱

63才

一 御手焙 白銅

壹箱

(朱書)「此御手焙白銅慶應三年卯十一月御前様江被進相成御用方様より御醫師戸塚文海老江御送相成ル」

一 御盃 壽字付三ツ組

壹箱

一 御釜 銀

壹

一 御手燻 唐山製

壹箱

63ウ

一 唐碁石壹面

壹箱

一 御尺時斗壹通

式箱

慎徳院様御手焼／御臺様より御拝領

一 御蓋茶碗九ツ

壹箱

64才

一 御柄杓押 牛之形

壹箱

大倉谷御本陣より差上候

一 御卓

壹箱

安政五年石井昌平より献上

一 御大茶入 藤四郎作／唐物

壹箱

(朱書)「此御大茶入唐物藤四郎作壹箱元治元年子二月御茶屋江引渡し御数寄屋御根帳入二相成ル」

(64ウ 空白)

(4丁 空白)

65才

御馬具

八番

一 御鏡 加賀住定次作／琵琶象眼入

壹足

一 御鏡 朱塗

壹足

65ウ

一 御鏡 黒塗

壹足

一 御鞍 木地／葡萄二栗鼠金物

壹脊

一 御鞍 朱塗

壹脊

英俊院様御持込

一 御鞍 惣梨子地牡丹蒔絵／折紙付

壹脊

66才

右同断

一 御鏡 惣梨子地牡丹蒔絵／折紙付

壹足

右同断

一 御鞍 惣梨子地獅子高蒔絵／折紙付

壹脊

一 御鏡 御鞍同断

壹足

66ウ

一 御鞍鏡 梨子地獅子牡丹／蒔絵／折紙付

壹箱

〔朱書〕「此御鞍鏡梨子地牡丹蒔絵文久式年戊十月  
二条様江御進物二相成候」

一 御鞍 村梨子地浪二亀蒔絵

壹脊

一 御鏡 重真作／銀象眼真鍮卷龍象眼

壹足

67才

一 御鏡 黒塗蝶御紋付／唐花透し

壹足

【此御鏡明治四年未三月廿七日

從五位様御用二而東京へ相廻ス】

一 御鞍 朱塗紅葉／蒔絵

壹脊

萬延元年申閏三月江戸根之内相廻候

一 御鏡 真鍮立浪象眼

壹足

67ウ

萬延元年申閏三月江戸根之内相廻候加州金沢住重吉作

一 御鏡 菊水象眼

壹足

右同断

加州住善左衛門永國作

一 御鏡 菊菱象眼

壹足

萬延元年申八月三日口日野郡郷土足羽純亭より献上

一 御鞍 革練鞍惣黒塗／別二黒塗替居木添

壹脊

68才

萬延元年西二月十二日口日野郡貝田村岡田武左衛門献上

一 御鞍 革練鞍惣黒塗／縁金鑄懸付

壹脊

〔朱書〕「此革練鞍黒塗縁金鑄懸付沓脊慶應四年辰二月  
西園寺三位中将殿江被進二相成ル」

萬延元年西二月十二日御職人小倉園三郎献上

一 御鞍 柘木地

壹脊

一 御鞍 惣梨子地蓮蒔絵

萬治元年霜月吉日と有之

壹脊

68ウ

伊勢因幡守貞恭作

一 御鞍	惣梨子地高蒔絵／折紙付	壹春	(1丁 空白)
	延徳元年十月八日と有之		71才
一 御燈	右同断／折紙付／但し紋三本蕨	壹足	九番
一 御鞍	外黒塗浪二鯉蒔絵／内梨子地四方手付	壹春	一 御野風呂 <sup>(原)</sup> 真鍮／銀御湯煎蓋共
69才			一 盆景砂 数々入
一 御燈	外黒塗内朱塗	壹足	71才
一 御泥障	熊毛紐／黒絹糸打	壹掛	一 壺式ツ入
一 一切付肌付	黒塗皮／杷熨斗蒔絵	壹通	(朱書)「此壺式ツ入老箱元治元年子十月御平用御用御側上り切二相成ル」
69ウ			一 御短冊箱
一 御板馬氈	滑皮縁金塗／力革共	壹枚	一 銘香箱
一 御馬氈	黒天鷲絨	壹喰	天保十四年御拝領
一 御轡	市口庄兵衛藤原正信作	壹掛	一 御刀掛 紫檀鼓形蒔絵
70才			72才
一 御立聞	紅白染分	壹掛	一 御料紙硯箱 内黒塗／杜若蒔絵
一 仙臺桿掛		壹掛	(朱書)「此御料紙硯箱老通新次郎様御逝去後為御遺物／被進二相成ル」
一 御手綱	紫縮緬	壹筋	一 人皇正統録拾六卷入
70ウ			一 御小箆筒 藤二蕪之／蒔絵
龜井隠岐守様より御到來			【此御小箆筒／当時御側上り／(朱書)「正姫様江被遺書入事」】
一 乱鞍		式春	英俊院様初而御登城之節／御臺様より御拝領
			一 御見臺 獅子二牡丹／高蒔絵



72ウ

安政五年高橋傳右衛門より差上ル

一 鳳笙 秋の海

壹管

【此鳳笙亥ノ十一月當分御〔矢想〕ノ〔朱書〕「御奥ニ有之」】

右同断

一 鳳匏笙 春霞

壹管

【此鳳匏笙丑ノ三月十九日ノ御側上リノ〔朱書〕「御奥ニ有之」】

英俊院様初而御登城之節ノ御臺様より御拝領

一 御花生 唐銅薄端

壹箱

73才

尚信無銘印有

一 御屏風 六枚折 大縁小縁付ノ間ニ合砂子張付

墨繪山水画

壹双

守景筆伊川院添手紙有

一 御屏風 六枚折 大縁小縁付ノ裏金無地

粉色舞楽之圖

壹双

英俊院様御持込

探幽筆

一 御屏風 六枚折 大縁小縁付ノ裏無地金張付

桐鳳凰之繪金地粉色

壹双

73ウ

英俊院様御持込

探幽筆

一 御屏風 六枚折 大縁小縁付

天村砂子粉色唐土

宮殿之圖裏金無地村

砂子粉色四季花鳥

壹双

英俊院様御持込

探幽筆

一 御屏風 六枚折 大縁小縁付

粉色唐土琴碁ノ書画天金地村砂子

裏金無地張付

壹双

74才

光琳筆添状有

一 御屏風 貳枚折

太公房之圖粉色

金地裏金無地

片ノ

一橋刑部卿様より御焼失為御見舞御到来

南蘋筆

一 御中屏風 六枚折

四季山水花鳥

画押絵張

壹双

74ウ

一 御屏風

六枚折 近衛様御歌薄

粉色鷹之繪

天地金砂子裏雀形

壹双

尚信筆

一 御屏風

六枚折 大縁小縁付

墨繪人物裏浅黄  
刷毛目金村雲金物有

壹双

75才  
探幽筆

一 御屏風

六枚折 大縁小縁付

墨絵山水裏浅黄

鳥ノ子金村雲金物有

壹双

一 御置物 伊部焼獅子ノ大形臺共

式箱

無銘探幽筆

一 御中屏風

六枚折 大縁小縁付

墨絵馬ノ圖

裏雀形金物ノ唐竹丸之内蝶

壹双

一 虎ノ丸皮

壹箱

一 御机 玉子塗

壹脚

75ウ

探幽筆

一 御屏風

式枚折

墨絵山水

裏金村砂子金物有

壹双

一 御屏風

六枚折 大縁小縁付

金地粉色一ノ谷合戦ノ之圖裏雀形

壹双

76才

文久式年戌六月町人間嶋要助献上

一 御屏風

六枚折 大縁小縁付金張

墨絵鹿時鳥之圖裏雀形

壹双

(朱書)「此六枚折御屏風文久式年戌八月御茶屋江御切二相成ル」

(76ウ 空白)

(3丁 空白)

77才

一 御琴三穂風

御替代衣懸

壹箱

御袋別箱二入 七番御長持二入